

不登校未然防止の視点と、 児童生徒保護者の視点を活かした 学校運営の改善を進めるために

2024年3月 町田市議会 一般質問 矢口まゆ

不登校の未然防止のために、 学校風土の「見える化」を通じた対応を求める

事務連絡
令和5年7月31日

各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課
各都道府県私立学校主管課
附属学校を置く各国立公立大学法人担当課
小中等学校を設置する学校設置会社を
所管する構造改革特別区域法第12条第
1項の認定を受けた各地方公共団体担当課

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

不登校児童生徒の支援に係る情報提供等について

めて提示するための様式例（別添1）を作成するとともに、学校の風土等を把握するためのツール（別添2）を整理いたしました。

また、令和5年7月10日に発出いたしました「児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）」において、一人一台端末を用いたアプリ等の健康観察・相談窓口システム一覧（別添3）を更新いたしました。

つきましては、本内容について、都道府県・指定都市教育委員会にあっては所管の学校及び地域の市区町村教育委員会に対して、都道府県私立学校主管課にあっては所管の私立学校に対して、国立公立大学法人にあっては設置する附属学校に対して、株式会社立学校を認定した地方公共団体にあっては認可した学校に対して、周知をお願いいたします。

2. 学校風土の「見える化」のツール

COCOLO プラン通知に基づき、学校の風土等を把握するための具体的なツールや導入に当たっての効果、実践事例等を整理いたしましたので、別添2のとおり送付いたします。

各教育委員会等の事情に応じて、こうしたツールも御参考いただきながら、学校生活の安心感等の学校の風土や雰囲気把握し、関係者が共通認識を持って取り組むことにより、安心して学べる学校づくりを進めるための取組を推進いただきますようよろしくお願いいたします。

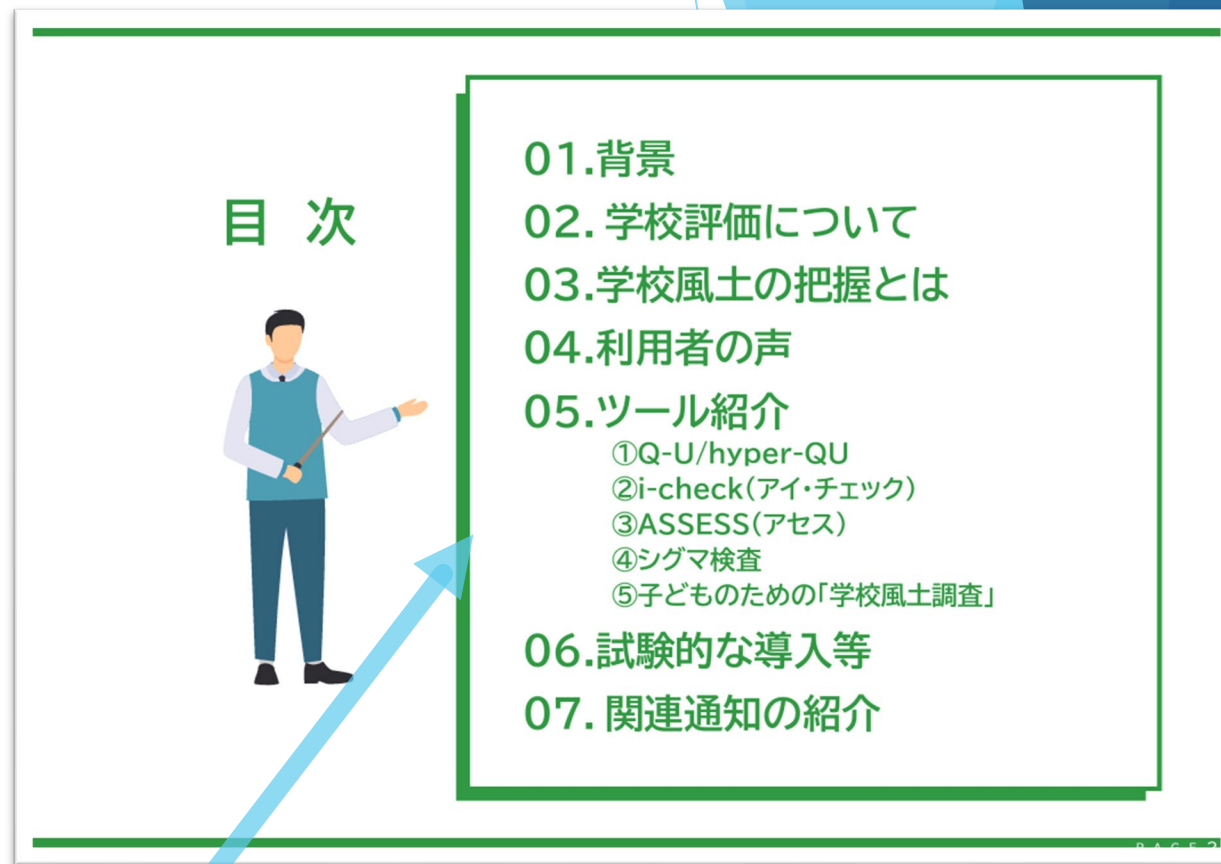
【本件担当】

文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室
生徒指導第一係

電話：03-5253-4111

E-mail：s-sidoul@mext.go.jp

文科省の提案する学校風土の把握ツール



20230801-mxt_jidou02-000028870_8.pdf (保護) (mext.go.jp)

町田市ですでに実施されているものもあり、
それらを学校風土の把握に利用すべき

◆学校評価
◆hyper-QU

02.学校評価について

制度概要

平成19年の学校教育法及び同施行規則改正により規定。

【目的】

各学校が自らの教育活動等の成果や取組を不断に検証することにより、

- ①学校運営の組織的・継続的な改善を図ること、
- ②各学校が保護者や地域住民等に対し、適切に説明責任を果たし、その理解と協力を得ること、
- ③学校に対する支援や条件整備等の充実につなげること

	内容	法令上の位置づけ	
自己評価	●各学校の教職員が自ら行う評価	●実施の義務 ●評価結果の設置者への報告の義務	●公表の義務
学校関係者評価	●保護者、地域住民等の学校関係者が、自己評価の結果を踏まえて行う評価	●実施の努力義務 ●(実施した場合)評価結果の設置者への報告の義務	●公表の努力義務
第三者評価	●外部の専門家により、専門的視点から行う評価	-	

文部科学省の取組

- 各学校や設置者の取組の参考となるよう学校評価ガイドラインを策定(平成22年7月)。
- 学校評価の充実・改善に関する調査研究を意欲ある教育委員会等に委託し、**実践的な取組例を取りまとめ、普及。**(平成25年度:8教育委員会)
- 小中一貫教育を実施する学校における学校評価の留意点を盛り込んだ学校評価ガイドラインを改定(平成28年3月)。

教育委員会に求められる役割

- ①明確な方針の策定
 - ・明確な学校教育に関する方針を策定し、各学校の評価目標との関連を図る
 - ・各学校の創意工夫に満ちた主体的な取組を尊重しつつ、**統一的な様式や共通評価項目、スケジュール等を例示**するなど、各学校の取組を推進する
- ②学校評価に関する好事例の普及と人材育成
- ③評価結果を踏まえた学校運営の改善・充実
 - ・各学校の学校評価が適切に行われているか検証し、学校評価を通じた学校運営改善が円滑に進むよう必要な**指導・助言**を行う
 - ・学校評価の結果等を踏まえ、**学校に対する支援や条件整備等の改善**を行う

各学校における取組の充実

実効性の高い評価とは、教育活動や教育水準の向上、子供の成長につながっているという**有用感のある取組**。そのための参考となる学校による取組例として以下がある。

- (1)学校内における取組の充実
 - ①学校評価における目標の系統化・重点化
 - ②全教職員の参加と協働による学校評価の実施
 - ③効率的・効果的な学校評価を行う体制づくり(ICTの活用、学校事務職員の活用等)
- (2)学校関係者との連携、協働の推進
 - ①情報提供の充実による学校への理解促進と連携強化(HPの充実、学校に触れる機会の提供等)
 - ②学校関係者評価委員会の運営の工夫等(学校の現状や課題、改善の手立ての明示等)
 - ③**外部アンケート等の工夫(項目の精選、学校の持つ指標・データと対比して活用等)**

児童生徒・保護者対象のアンケート(外部アンケート等)

- ・自己評価を行う上で、児童生徒や保護者、地域住民を対象とするアンケートによる評価や、保護者等との懇談会を通じて、授業の理解度や保護者・**児童生徒がどのような意見や要望を持っているかを把握することが重要である。**
- ・(略)アンケート等については、**学校の自己評価を行う上で、目標等の設定・達成状況や取組の適切さ等について評価するためのものととらえることが適当であり、学校関係者評価とは異なることに留意する。**

[評価項目・指標等を検討する際の視点となる例]

■教育目標・学校評価

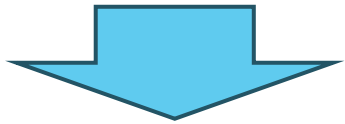
○学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況

- ・児童生徒・保護者の満足度の把握の状況
- ・教育相談体制の整備状況、児童生徒・保護者の意見や要望の把握・対応状況
- ・授業など学校に対する評価が実施されている場合、評価を行った児童生徒・保護者の匿名性の担保への配慮の状況
- ・(データ等)児童生徒・保護者による授業などに関する評価の結果



(学校評価ガイドライン[平成28年改訂]P.4、P.52～53より抜粋)

- ◆外部アンケート(児童生徒・保護者対象のアンケート)の工夫として学校評価ガイドラインの「授業等学校に対する評価が実施されている場合、評価を行った児童生徒・保護者の匿名性の担保への配慮の状況」部分が引用されている。



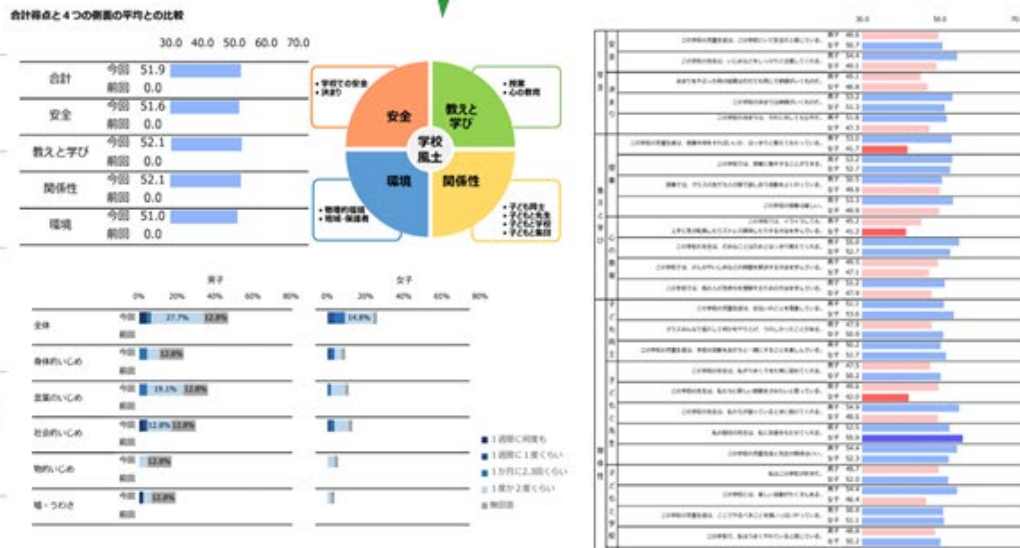
町田市でも、確実に匿名性が担保されるよう全校で対応を統一すべきでは。

05. ツール紹介⑤ 子どものための「学校風土調査」

公益社団法人
子どもの発達科学研究所

<p>特徴</p>	<p>文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」で科学研究を経て開発された「日本学校風土尺度」をベースとした調査であり、①学校での安全性(安全、決まり)、②教えと学び(授業、こころの教育)、③関係性(子ども同士、子どもと先生、子どもと学校、子どもと集団(多様性・人権))、④環境面(物理的環境、地域・保護者)の4観点から構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本いじめ尺度」に基づくいじめ調査も同時に実施可能。 ・結果と併せて、学校風土向上のための方法や教師トレーニングの提案を行う。 ・無記名回答のため、より正確な調査が可能。
<p>設問数</p>	<p>32問(いじめ調査を含む場合は45問)</p>
<p>適用学年</p>	<p>小学校1年生～中学3年生</p>
<p>実施時間</p>	<p>約20分～40分間</p>
<p>実施頻度</p>	<p>年2回を推奨 (3回以上については応相談)</p>
<p>回答方法</p>	<p>Web回答、無記名式(共用端末利用可能) ※無記名回答のため正確な調査が可能。</p>
<p>価格(税込)</p>	<p>年間1回：1校当たり5万円 年間2回：1校当たり10万円 ※3回以上は応相談 同社提供の心身健康観察アプリ「デイケン」とメンタルヘルス調査「NiCoLi」(年間12回まで)を併用した3ツールによる多面的アセスメントセットは月額100円(税込)／人(研修ビデオ視聴も付属)</p>
<p>HP</p>	<p>https://kodomolove.org/schoolsupportprogram/schoolclimate</p>

エビデンスに基づく各学級や学校の様子が分かり、前回調査との比較を通して学級運営等を見直すことにつながる。



文科省マニュアルを参考にした 新たな取り組みの提案

- ▶ 不登校マニュアル作成時や、マニュアル作成後の定期的な学校風土の把握のために、匿名性を担保した「子どものための学校風土調査」の利用を検討しては。
- ▶ hyper-QUの学級診断の結果や学校評価の結果について、コミュニティスクールへの報告を徹底する事、その報告の内容を参考にして学校風土について議論をするよう徹底できないか。
- ▶ 不登校マニュアルの作成の前に、不登校になった理由について、市独自に匿名性を担保した形で子どもたちに直接問う調査を行ってほしい。できるなら、保護者と児童生徒本人と二通りできるのが理想であると考えてる。